

春播きブロッコリー被覆栽培における 害虫侵入防止効果

福島県農業総合センター 浜地域研究所
平成18年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

野菜 - ブロッコリー - 栽培型、病虫害防除
分類コード 03-25-18230000

2 担当者

水野由美子・常盤秀夫

3 要旨

春播きブロッコリー(3月下旬～4月下旬定植)の有機栽培における虫害回避技術として、防虫ネット、不織布を用いて被覆栽培を行い、害虫の侵入防止効果について検討した。

- (1) 被覆方法は、1.0mm目合防虫ネットトンネル、1.0mm目合防虫ネット簡易ハウス、不織布トンネル、不織布べたがけとした。被覆期間は、定植直後から収穫時までの全期間とした。有機質肥料の全量基肥マルチ栽培、無防除で試験した。
- (2) 収穫物の虫害割合は、無被覆では鱗翅目害虫による被害が59.5%発生したのに対し、1.0mm目合防虫ネットトンネルでは2.2%、不織布トンネル、不織布べたがけおよび1.0mm目合防虫ネット簡易ハウスでは0%となり、被覆栽培における高い害虫侵入防止効果が確認された。
- (3) 商品花蕾数は、無被覆では通常防除区の20.2%まで減少したのに対し、被覆栽培では通常防除区並～やや多くなった。
- (4) 収穫は、不織布トンネル、不織布べたがけが無被覆より1週間程度早く、1.0mm目合防虫ネットトンネル、1.0mm目合防虫ネット簡易ハウスは無被覆とほぼ同日であった。
- (5) 以上のことから、春播きブロッコリー栽培において、1.0mm目合防虫ネットや不織布を用いて被覆栽培を行うことにより、鱗翅目害虫の侵入を遮断することができた。被覆方法は、不織布トンネルよりも不織布べたがけの方が、被覆作業が簡単で省力的である。
- (6) 被覆栽培においても早植えによる霜害には留意する。

4 その他の資料等

被覆材を使用せずに、葉齢を進めた大苗を定植して害虫が少ない時期まで収穫を早めることでも虫害は軽減される(H18参考となる成果「春播きブロッコリーで大苗定植すると収穫時期が早まり虫害が軽減できる」)。